

富士塚遺跡

FUJIZUKA SITE

埋蔵文化財包蔵地緊急発掘調査報告書

—ふるさと農道緊急整備事業—

2000. 3

伊那市教育委員会

伊那市經濟部耕地林務課

あ い さ つ

我が伊那市内には数多くの遺跡が確認されています。遺跡とは人々の生活の有様を実証してくれる確たる証拠資料であります。

今回の調査対象地区となった富士塚遺跡は通称、小黒原台地と呼ばれる一帯の北端部に位置しています。この周辺一帯は、近世、富士信仰の拠点となった「富士塚」が構築された場所として多くの市民に知られています。加えて、日本地質学会で、全国的に名をとどろかせた「小黒川活断層地帯」が南北に走向しています。

このたび、この地域にふるさと農道緊急整備事業が導入されることになり、着工するに先だって緊急発掘調査を実施し、その調査結果を著したのがこの報告書であります。

本調査は平成11年12月に実施されました。限定された道路幅だけの調査だったので、当初、期待していた程の資料は得られませんでした。

発掘調査に当たっては長野県教育委員会文化財・生涯学習課、伊那市経済部耕地林務課をはじめとする関係諸機関及び関係者の皆様に多大な御協力をいただきました。ここに厚く感謝の意を表する次第であります。

平成12年2月

伊那市教育委員会

教育長 保 科 恭 治

1. 富士塚遺跡とその環境



遺跡分布図（富士塚遺跡付近の主要な遺跡）（1：50,000）

位置と地形

富士塚遺跡は長野県伊那市大字伊那荒井区字富士塚地籍に所在しており、南側は小黒川左岸河成段丘、北側は小沢川右岸河成段丘に挟まれた通称小黒原山麓扇状地の扇央部に位置している。この一帯の基盤は疊層より成立し、その上に厚くテフラ層が覆っている。これらの地層面には南北に長く活断層の痕跡が顕著に見られ、これに関して、「小黒川活断層」の名称にて、日本地質学会を賛わしている。本遺跡地の南側は大きな凹地状地形が東西にわたって展開しているのが一見できる。この状態は本遺跡より東方500m位にある春日城跡へ引水した痕跡だと地元では伝承されており、一つの歴史的な遺構と捉ってもよいのではないかと思われる。

周辺の遺跡

本遺跡地の周辺には割合に遺跡の存在は散在的である。遺跡の存在が濃密的なのは前述した両河川に沿った一帯である。この状況は明らかに遺跡の存在は水との関連性のもとに実証されていることが分かる。本遺跡地には名の示すように富士山信仰の象徴である「富士塚」が構築され、さらに、伊那街道伊那部宿の主要な生活用水となった「原田井用水」の痕跡が見られる。その他、周辺の主要な遺跡の内訳については今までに刊行された数多くの遺跡発掘調査報告書に掲載されているので、それらを参考にして頂くとして、今回は割愛する。（飯塚政美）

2. 遺跡の概要

富士塚遺跡の代名詞となつた富士塚は伊那市総合運動場と西側で隣接しており、現在は伊那市指定史跡となっている。この場所に行つてみれば分かることであるが、直径約16m、高さ約3mを測定でき、遠くから見ても、こんもりと高くなっている様相が認められ、名の示す如く富士山を模倣した状態が確認できる。

この富士塚は近世信仰対象物の造構として長野県遺跡地図に明示されており、仮に開発の手が加わるような場に直面したならば、発掘調査の必要性が法的に義務づけられているので御承知置き願いたい。墳丘南東の側縁に説明看板を設置してあるのでは非とも御高覧を願う。

本遺跡地の分布範囲は約2haの数値に達しているが、その内、大部分は活断層地帯に該当しており、全般的に東傾斜面、あるいは微高地状態を呈しており、遺跡地の自然的条件としてはあまり良好ではない。したがって、大規模な集落の存在は希有と想定され、いわば散布地的と把握したほうが妥当と察せられる。

遺跡の調査状況及び出土遺物

今回の調査方法としてトレンチ方式を採用した。トレンチは地形及び用地買収地に応じて第1号トレンチから第11号トレンチを設定した。出土遺物は縄文中期土器1片、縄文中期石錐1個、平安時代土師器1片、鉄片（時期不詳、用途不明、サビによる腐食の進行が甚だしい）であった。石錐は黒曜石製で、先端部及び側縁部の剥離は丁寧に調整されていた。これは第4号トレンチ内出土のNo2である。土器片は、細片であったために文様の様相はよく判断出来なかった。（飯塚政美）



地形及びトレンチ配置図 (1:1,000)



石錐実測図 (1:2)

3. 発掘調査の経過

発掘調査に至るまでの経過

今回、発掘調査の該当地となった富士塚遺跡はふるさと農道緊急整備事業に伴う緊急発掘調査であり、調査が実施されるまでには各種の保護協議、事務上の手続きが実施され、それらの動きを年月順に従って記しておくことにする。

平成10年10月14日、長野県教育委員会文化財保護課職員と、伊那市教育委員会社会教育課職員、伊那市經濟部耕地林務課職員の三者で締密なる保護協議を実施、支障のないように努めた。

平成11年11月5日付けで、伊那市長小坂栄男と市内遺跡発掘調査団団長友野良一両者間で埋蔵文化財包蔵地発掘調査委託契約書を締結する。

平成11年11月15日付けで、文化庁長官宛に埋蔵文化財発掘調査の通知について（第98条の2第1項の規定による）を提出する。

平成11年12月24日付けで、富士塚遺跡発掘調査終了届を長野県教育委員会教育長宛に提出する。

平成11年12月24日付けで、富士塚遺跡発掘調査出土埋蔵文化財の拾得についてを伊那警察署長宛に提出する。

平成11年12月24日付けで、富士塚遺跡発掘調査出土埋蔵文化財保管証を伊那警察署長を経由して長野県教育委員会へ提出する。

調査の組織

緊急発掘調査に着手する前に次のような組織編成を行い、万全を期した。

伊那市教育委員会

委員長 小田切 仁

委員長代理 小坂 栄

委 員 岸 敏子（任期：平成11年12月20日まで）

タ 上島 武留（任期：平成11年12月22日から）

タ 小松 光男

教 育 長 保 科 恭治

教 育 次 長 唐沢 勇

事 務 局 酒井 俊彦（社会教育課長）

タ 伊藤 初美（社会教育課長補佐 女性室長）

タ 白鳥 今朝昭（社会教育係長）

タ 矢沢 謙一（社会教育青少年係長）

タ 飯塚 政美（社会教育係）

タ 牧田 としみ（社会教育係）

事務局 高松慎一(社会教育係)

発掘調査団

団長 友野良一(日本考古学協会会員)

調査員 飯塚政美()

タ 本田秀明(長野県考古学会会員)

タ 高松慎一(上伊那郷土研究会会員)

作業員 城倉三成 織井和美 酒井公士郎 松下末春 小田切守正(敬称略順不同)

発掘調査日誌

平成11年12月1日 伊那市考古資料館にて発掘器材の整備、点検をする。午後、発掘現場へそれらを運搬する。

平成11年12月6日 発掘現場へスペースハウス、コンテナハウス、簡易トイレを設置する。本日、トレンチを設置し、掘り始める。

平成11年12月7日 風が強く、寒い一日であった。重機を用いてトレンチ掘りを続ける。黒耀石製の石鎚が一点出土する。

平成11年12月8日 前日と同様の作業を実施。土器の細片が出土する。

平成11年12月13日 道路敷地内で材木の後片付けを実施。その後、トレンチを設定し、重機にて発掘調査を進行し、何も検出されず。

平成11年12月15日 重機にてトレンチ掘りを実施する。

平成11年12月20日 トレンチを清掃して、写真撮影を終える。地形及びトレンチ配置図を作成後、埋め戻しを開始する。

平成11年12月21日 トレンチの埋め戻しを完了する。

平成11年12月22日 発掘器材の後片付けを終了し、本日をもって発掘調査を終了する。

平成12年1月～平成12年2月 遺物の整理、図版の作成、原稿執筆、報告書を印刷所へ送る。

平成12年2月 報告書の校正、刊行をする。

(飯塚政美)



重機にて掘り下げる



人力にて掘り下げる

4. 所 見

ふるさと農道緊急整備事業施行前に緊急発掘調査を実施した。富士塚遺跡の状況及び、わずかながらの成果は先に述べた通りである。成果が極めて希薄であるために、深い研究への領域には達せずに、従って所見は簡略になる。

本遺跡の規模と立地

本遺跡地の規模はわりあいに狭く、遺跡散布地的な色彩を持っている。今回の発掘調査地点は先に述べたように限定された道路幅だけであった。しかも南端部は大きな溝が入っており、その下部は砂疊層が何層にもわたって堆積しており、流れの継続性が連想される。従って、集落の構成自体が成された可能性は希薄と想定され、よって、遺構の存在も低いものと思われ、このようなことからして、今回の調査では全く何も検出されなかった。

遺物について

今回出土した遺物は縄文中期の黒耀石製石鎌、平安時代土師器のそれぞれ1片ずつに限られた。このような状況はまさしく遺跡散布地の性格を裏付けさせてくれる確たる証明であろう。

最後に、この発掘調査に予算面及び日程等にご指導を賜った長野県教育委員会指導主事原明芳氏、現場での調査の便宜をとりはからって下さった伊那市経済部耕地林務課職員一同及び地権者の方々、さらに直接的に、発掘調査に手をわざらわせた調査員の諸先生並びに作業員の各位に対し、深く感謝致す次第であります。

(飯塚政美)



遺跡地を東側より眺む



遺跡地を南側より眺む



第1号トレンチ



第2号トレンチ



第3号トレンチ



第4号トレンチ



第5号トレンチ



第6号トレンチ

図版 発掘調査状況及び遺物出土状況



第7号トレンチ



第8号トレンチ



第9号トレンチ



第10号トレンチ



第11号トレンチ



土器出土状況



石臼出土状況

報告書抄録

ふりがな	ふじづかいせき						
書名	富士塚遺跡						
副書名	ふるさと農道緊急整備事業						
巻次							
シリーズ名							
シリーズ番号	埋蔵文化財包蔵地緊急発掘調査報告書						
編著者名	友野良一 飯塚政美						
編集機関	伊那市教育委員会						
所在地	〒396-8617 長野県伊那市大字伊那部3050番地 TEL0265-78-4111						
発行年月日	西暦2000年2月25日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東經	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
ふじづか 富士塚	ながのけん いなし 長野県 伊那市 いな あらい 伊那荒井	伊那市	67		平成11年 12月1日 ～ 平成11年 12月22日	1,500	ふるさと 農道緊急 整備事業 に伴う調 査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
富士塚	散布地 塚	縄文時代 平安時代 江戸時代		縄文中期石器 縄文中期土器 平安時代土器	富士塚遺跡は活断層地帯及び小黒川複合扇状地の扇央地帯の中心部に位置している。今回の調査は道路幅の限定された場所であったために、きわだった成果は何も無かった。 従って、今回の調査地点は富士塚遺跡の散布地帯と想定され、この遺跡の集落範囲が確認できた。		

